

この度、第 118 回あしぎん景況調査の結果がまとまりましたので、別紙の通り発表させていただきます。今回のポイント及び概要は下記の通りです。

記

1. 今回のポイント

企業の業況感は、製造業を中心に改善しているものの、そのテンポは弱まっている。

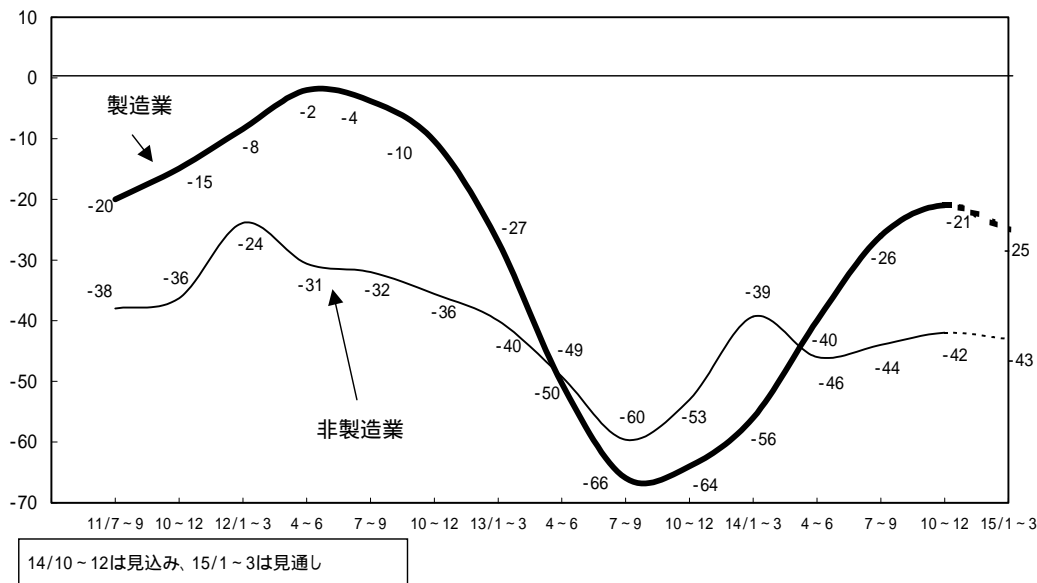
今期(14年10~12月期)の業況判断D.I.値は、製造業が 21、非製造業が 42 となった。前期(14年7~9月期)に比べ、製造業が5ポイント、非製造業は2ポイントそれぞれ改善した。

来期(15年1~3月期)は、製造業が 25 と今期に比べ4ポイント、非製造業は 43 と1ポイントそれぞれ悪化に転じる見通しである。

製造業は、引き続き生産活動が回復基調にあることから、業況判断D.I.値は5期連続でマイナス幅を縮小するなど改善の動きを続けている。しかし、世界経済や株価など先行きに対する不透明感が高まっており、今後については幅広い業種で慎重な見方が広まっている。

一方、非製造業では個人消費など需要面の弱い動きが続いていることや、デフレ圧力が引き続き強いことなどを背景に、全般的には足取りの重い展開となっている。

業況判断D.I.値



2. 概要

(1) 製造業

今期実績見込み(14年10~12月期)

・業況	(業況判断D.I.値)	21	前期比	+	5	ポイント
・経常利益	(前年比増減D.I.値)	16	前期比	+	5	ポイント
	(水準D.I.値)	4	前期比	+	14	ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	67%	前期比	+	2	ポイント
	(投資額D.I.値)	14	前期比	+	10	ポイント
・雇用	(増減D.I.値)	24	前期比		0	ポイント
	(適正水準D.I.値)	15	前期比		0	ポイント

- ・経営上の問題点「需要減退」、次いで「競争激化」、「製・商品(サービス)単価の値下がり、値上げ難」の順となっている

来期見通し(15年1~3月期)

・業況	(業況判断D.I.値)	25	前期比		4	ポイント
・経常利益	(前年比増減D.I.値)	17	前期比		1	ポイント
	(水準D.I.値)	3	前期比		7	ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	58%	前期比		9	ポイント
	(投資額D.I.値)	2	前期比		12	ポイント
・雇用	(増減D.I.値)	27	前期比		3	ポイント
	(適正水準D.I.値)	20	前期比	+	5	ポイント

(2) 非製造業

今期実績見込み(14年10~12月期)

・業況	(業況判断D.I.値)	42	前期比	+	2	ポイント
・経常利益	(前年比増減D.I.値)	27	前期比		3	ポイント
	(水準D.I.値)	4	前期比	+	4	ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	44%	前期比		4	ポイント
	(投資額D.I.値)	34	前期比		0	ポイント
・雇用	(増減D.I.値)	19	前期比	+	4	ポイント
	(適正水準D.I.値)	4	前期比		5	ポイント

- ・経営上の問題点「競争激化」、次いで「需要減退」、「製・商品(サービス)単価の値下がり、値上げ難」の順となっている

来期見通し(15年1~3月期)

・業況	(業況判断D.I.値)	43	前期比		1	ポイント
・経常利益	(前年比増減D.I.値)	26	前期比	+	1	ポイント
	(水準D.I.値)	8	前期比		4	ポイント
・設備投資	(実施企業割合)	40%	前期比		4	ポイント
	(投資額D.I.値)	30	前期比		4	ポイント
・雇用	(増減D.I.値)	21	前期比		2	ポイント
	(適正水準D.I.値)	6	前期比	+	2	ポイント